西日本新聞社

新輪転機5セット体制構築
高機能、省コスト 最新鋭機で〝盤石〟
120人参集 製作センター落成式

起動ボタンを押す西日本新聞社・柴田社長㊧と西日本新聞印刷・高橋社長

西日本新聞社は5年がかりで進めてきた新輪転機4セットの導入が完了し、別の1セットと合わせ計5セットによる新製作体制が完了し、6月5日に福岡市博多区井相田の西日本新聞社製作センターで落成式を開いた。

西日本新聞社は2012年から製作センター（福岡市博多区井相田2丁目）本館で建設を進めてきた新輪転機4セットを完成させた。別館の1セットと合わせ計5セット体制による新たな新聞印刷体制が整い、本館新輪転機の安全祈願祭と新製作体制の落成式を同センターで開いた。

今回の設備更新計画は、稼働から約20年がたち老朽化が著しい製作センター本館の輪転・発送・搬送設備を一新し、別館の1セットと合わせた5セット体制を構築するという大規模なもので、工事は2分割で行われた。

1期工事は12年6月に着工。14年2月までに本館西列の輪転機2セットと発送機器、新聞搬送設備を更新した。2期工事は15年4月に着工。本館東列の既設輪転機3セットをすべて撤去し本体工事に着手した。輪転機の単色印刷ユニットを廃止する方針を固め、1期工事で設置した輪転機から印刷ユニットや付帯機器を取り外し、東列に建設する輪転機に移植。多品種印刷を想定し、自動洗浄装置や最新型の発送機器を採用するなど機能強化も図り、2017年4月に完工した。

新輪転機の安全祈願祭、起動式に続いて行われた落成式には、機器、資材メーカーや建設会社、輸送業者の代表や本社社員ら計約120人が出席。柴田建哉社長はあいさつで「新聞を取り巻く環境は厳しさを増しているが、紙の新聞が経営の根幹であることに変わりはない」としたうえで、今回導入した輪転機が高機能と省コストを両立した最新鋭機であることを強調。「西日本新聞製作センターの生産体制は、今後20年間は盤石だ。毎日、読みやすいきれいな紙面、スポンサーが求める精度の高いカラー広告面などを読者におく届けする」と決意を新たにした。

メーカーを代表して祝辞を述べた三菱重工印刷紙工機械の清水雅巳社長は、同新聞社の青木秀社長（当時）が余った年賀状を三菱重工の社長に送ったのがきっかけで、全く取引がなかった両社に縁ができたという二十数年前のエピソードを紹介。清水社長は「この機械が今後20年、あるいはそれ以上安定して稼働するよう全力を尽くしていく」と述べた。（西日本新聞社提供）

10月4日～13日 コンプトツアー

視察団参加者募集

2017年の「COMPTOUR＝欧州新聞製作事情視察」は、ドイツ・ベルリンで開催されるWorld Publishing Expo&DCX Digital Content Expo視察(2)WAN-IFRA特別セミナー(3)アクセル・シュプリンガー（ヴェルト紙とビルト紙どちらかを各自選択）・印刷工場〈スウェーデン・ストックホルム〉(4)ターゲンス・ニーヘーテル（スウェーデンの代表的な朝刊紙）・ボールド・プリンティング（印刷工場）(5)エクスプレッセン（キオスクなどで販売される夕刊紙）(6)アフトンブラーデット（キオスクなどで販売される夕刊紙）(7)現地研修会（2回）

費用＝61万5000円

募集締切＝8月21日㈪

13日㈮の10日間。

【訪問先と行事の概要】

〈ドイツ・ベルリン〉

(1)World Publishing Expo&DCX Digital Content Expo視察(2)WAN-IFRA特別セミナー(3)アクセル・シュプリンガー（ヴェルト紙とビルト紙どちらかを各自選択）・印刷工場〈スウェーデン・ストックホルム〉(4)ターゲンス・ニーヘーテル（スウェーデンの代表的な朝刊紙）・ボールド・プリンティング（印刷工場）(5)エクスプレッセン（キオスクなどで販売される夕刊紙）(6)アフトンブラーデット（キオスクなどで販売される夕刊紙）(7)現地研修会（2回）

費用＝61万5000円

募集締切＝8月21日㈪

人事異動

★山陽新聞社

7月1日付

〈新経営体制〉

取締役会長　越宗　孝昌

代表取締役社長・総合企画会議議長　松田　正己

常務取締役　財務・関連会社担当　白髭　研介

取締役　印刷局長　片山　淑雄

取締役　倉敷本社代表　大橋　宗志

取締役　総務局長、編集、論説、労務担当　日下　知章

取締役　営業局長　市川　邦昭

取締役　販売局長、読者担当　仮谷　寛志

取締役（非常勤・テレビせとうち代表取締役会長）　川端　英男

監査役　山陽新聞社会事業団専務理事　坂本　文雄

執行役員　社長室長　佐々木善久

局長扱（出向・岡山ネットワーク代表取締役社長）　石井　正人

局長扱（出向・山陽計算センター代表取締役社長）　西谷　治朗

読者局長　江草　明彦

編集局長　岡崎　伸二

経理局長　高田　洋

局長扱　論説委員会主幹　藤原　健史

局長扱（出向・岡山FM放送代表取締役社長）　塩飽　哲文

なお退任した常務取締役総務局長・土井雅人氏はテレビせとうち代表取締役社長に就任。

星のたより

「page2018」出展募集開始

日本印刷技術協会（本社・東京都杉並区、塚田司郎会長、以下・JAGAT）は、2018年2月7日㈬から9日㈮までの3日間、サンシャインシティコンベンションセンターで「page2018」を開催するが、このほど出展社の募集を開始した。新規出展社相談会も8月9日㈬から東京・大阪で5回開催する。

【出展募集期間】

2017年8月1日㈫から10月13日㈮まで。

【申込方法】

出展申込書に必要事項記入の上、page2018事務局宛てに郵送。

18事務局宛てに郵送。「page2018」出展案内・出展申込書JAGAT公式Webサイトよりダウンロード可。

【開催概要】

会期＝2018年2月7日㈬～9日㈮、10時～17時

展示会場＝サンシャインシティ展示ホールB・C・D

主催団体＝公益社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）

後援・協賛＝経済産業省、他関連業界団体

出展社数・小間数＝159社・539小間（page2017実績）

入場料＝1000円（税込）

来場者数見込み＝7万人

【問い合わせ】

〒166-8539

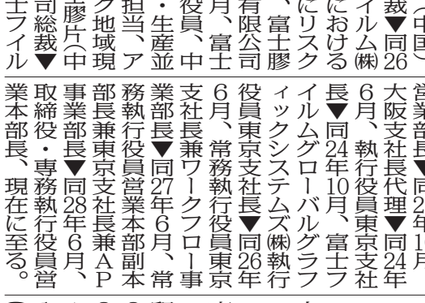
東京都杉並区和田1-29-11、公益社団法人日本印刷技術協会 page2018事務局、☎03-3384-3112、FAX03-3384-3116、Mail page@jagat.or.jp

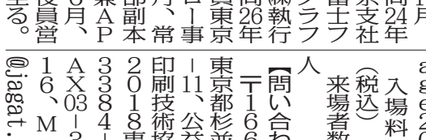
TKS製カラートップ エコワイドⅡ導入
来年9月完成 名古屋最大の印刷拠点
辻町南工場地鎮祭行う

中日新聞社

7月7日、中日新聞社の新たな印刷拠点となる中日新聞辻町南工場（仮称）の新築工事地鎮祭が執り行われた。神事には中日新聞社代表取締役会長：白井文吾氏、代表取締役社長：大島宇一郎氏をはじめ工事関係者ら45名が参列、工事の安全を祈願し、白井文吾会長により鍬入れが行われた。

このほど新築される辻町南工場（仮称）は、中日新聞金城工場に替わる印刷拠点として同区内に所在する辻町工場の隣接地に建設される。印刷、発送フロアに加え、福利厚生施設が入った3階建てで、延べ床面積は7686平方㍍。完成は2018年9月を予定。


厳かに開かれた新工場地鎮祭


TKS製カラートップ・エコワイドⅡ

新工場建設に向けて大島宇一郎社長は「辻町工場と合わせ、名古屋最大の印刷拠点となる。効率的で環境に優しい最新鋭の工場を目指す」と語った。

現在、金城工場では4×2型輪転機2セットが稼働中だが、新工場の竣工に合わせて金城工場の印刷業務は移管され、TKSの「カラートップ・エコワイドⅡ」オフセット輪転機3セットが新たに導入されることになる。

今回の辻町南工場（仮称）へのTKS製の輪転機導入で、同工場は都田工場の竣工に続く中日グループの重要な印刷拠点になる。導入するカラートップ・エコワイドⅡの輪転機構成は3CT44・1CT21・1CT11・1F・5Rの3セットで、40㌻24個面カラー印刷が可能。

来年10月下旬から11月末にかけて、1セット目から3セット目が順次本稼働を予定している。

FFGS新役員紹介

太田雅弘氏

代表取締役副会長　太田雅弘氏

昭和32年10月1日東京生まれ、同55年3月慶應義塾大学経済学部卒。

【職歴】

昭和55年4月、富士写真フイルム㈱入社▼同55年7月、富士宮工場事務部勤労課▼同62年7月、磁気材料事業本部業務部▼平成2年3月、磁気材料事業本部▼同3年3月、Fuji Photo Film, Inc出向（米国）▼同9年11月、輸出本部第2部印刷システムグループ課長▼同15年10月、富士写真フイルム（中国）投資有限公司出向▼同17年4月、富士星光印刷器材（上海）有限公司総経理▼同20年2月、FUJIFILM Graphic Systems U.S.A.社長（米国）▼同22年1月、FUJIFILM North America Corporation.President of Graphic System Division（米国）▼同24年6月、富士フイルム㈱執行役員、富士フイルム（中国）投資有限公司総裁▼同25年6月、富士フイルム㈱執行役員、富士フイルム（中国）投資有限公司総裁▼同26年6月、富士フイルム㈱執行役員、中国における開発・生産並びにリスク対応等特命担当、富士フイルム（中国）投資有限公司総裁▼同28年6月、富士フイルム㈱執行役員、中国における開発・生産並びにリスク対応担当、アジアパシフィック地域現地法人管掌、富士フイルム（中国）投資有限公司総裁▼同29年6月、富士フイルム㈱取締役執行役員グラフィックシステム事業部長兼富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱代表取締役副会長、中国における開発・生産並びにリスク対応担当、インクジェット事業部R&D統括本部アドバンストマーキング研究所管掌、富士フイルム（中国）投資有限公司管掌、現在に至る。

◇

代表取締役社長　辻重紀氏

【履歴】

昭和56年4月、プロセス資材㈱入社▼平成15年4月、富士フイルムグラフィックシステムズ㈱入社▼同17年10月、東京営業2部部長代理▼同19年4月、東京営業2部長▼同20年4月、東京営業1部長▼同22年10月、大阪営業部長▼同23年10月、大阪支社長代理▼同24年6月、執行役員東京支社長▼同24年10月、富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱執行役員東京支社長▼同26年6月、常務執行役員東京支社長兼ワークフロー事業部長▼同27年6月、常務執行役員営業本部副本部長兼東京支社長兼APAC事業部長▼同28年6月、取締役・専務執行役員営業本部長、現在に至る。

選ばれています。
「環境性」「信頼性」の次元が違う
富士フイルムのSUPERIA ZN

新聞の新たな使命として、いま、「目に見える環境対策」が期待されています。
この最新の課題に対する、富士フイルムの究極的なソリューションの一つが、
他社に先駆けて実用化した「新聞用完全無処理CTP」。
現場の過酷さに負けない「優れた耐刷性・耐汚れ性」、そして「コスト削減」にも
「納期短縮」にも直結する「頼もしい環境性能」が高く評価され、
おかげさまで着実に市場導入が進んでいます。
すでに半世紀近くにわたり、安定した品質の刷版を途切れなく供給してきた強みを活かし、
FFGSはこれからも「無処理CTPによる環境対応」をはじめとする独自のイノベーションにより、
陰ながら新聞の「社会的使命」を支え、業界の発展に貢献し続けます。

新聞用完全無処理サーマルCTP プレート
FUJIFILM SUPERIA
SUPERIA ZN

暑中お見舞い申し上げます。

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社
本 社　〒106-0031　東京都港区西麻布二丁目26番地30号 富士フイルム西麻布ビル　03(6419)0300　ホームページ　http://ffgs.fujifilm.co.jp

印刷通信

発行所
印刷通信社
編集発行　谷本　健吉
尼崎市立花町1－26－10
TEL 06－6429－4874
henshu @ intsu.net
URL:www.intsu.net
購読料：1ヵ年4,000円（税別）

新聞製作＆印刷
総合技術専門紙

今月の紙面

「SUPERIA」ZN ZD導入進む　2面
スペシャル対談 インクジェットビジネスの未来語る interpack2017　3面
人事異動　3面
インクジェットUVIQUE技術を新開発　4・5面